

第2回成田市宿泊税に関する有識者懇談会 会議録

1 日 時 令和7年1月31日（金）午後3時～午後4時25分

2 場 所 成田市役所 議会棟3階 第1委員会室

3 出席者

（委員）

星野 泉会長、影山 美佐子副会長、久米 剛委員、林 隆浩委員、
栗田 壮一郎委員、小川 喜章委員

（事務局）

財政課：平野課長、安西課長補佐、越川係長、小林係長

市民税課：小竹課長、村上係長

観光プロモーション課：窪田課長、黄野課長補佐

4 傍聴者 8名

5 会議次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

（1）前回の会議での主な意見

（2）宿泊税に関する宿泊事業者へのアンケート結果

（3）宿泊税の使途

6. その他

7. 閉会

●3. 議事 （１）宿泊税について

（安西財政課長補佐）

それでは、設置要綱第６条第１項の規定によりまして、会議の議長は、会長にお願いすることになっておりますので、星野会長、よろしくお願いいたします。

（星野会長）

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、委員の皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、まずは事務局より資料の説明を求めます。

（安西財政課長補佐）

それでは、わたくしから、資料に沿って順番に、ご説明させていただきます。（以下、説明）

（星野会長）

それでは、ただ今事務局から説明がありましたが、前回の会議でもご意見がありました、宿泊税の使途、修学旅行等の教育旅行の取り扱い、免税点、そして県から示されました市町村への支援としての交付金の要件等、これらを論点として、本日、議論を深めていきたいと思っております。

また、市のほうも当懇談会の意見を県にも伝えていくとのことですので、そういった観点からのご意見等も、ご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員の皆様、よろしくお願いいたします。

（栗田委員）

成田商工会議所の栗田でございます。

二つありまして、まず税率ないしは税額ですけれども、定額で取られた方が個人的にはいいと思っております。

なぜかという、今のようにオーバーツーリズムの需給関係の中で宿泊費が相当変わってきますよね。今来た人と半年後とか１年後に来た人が、同じところに泊まって同じサービスを受けるのに、宿泊税で差が付くのは違う気がする。なので、そういう部分を踏まえて、税とか率を考えた方がいいのかなというのが一つあります。

それと県の資料を見せていただいた中で、12 ページですが、県の方で活用が

認められない事例について、市町村で独自にやるっていうと、同じ宿泊税と言いつつながらその運用が、県と市で違うっていうのも違和感をものすごく感じました。もう少しここを突き詰めて検討・協議・議論された方がよろしいのかなと、この2点です。

以上です。

(星野会長)

はい、ありがとうございました。

これまでのお話の中でも、やっぱり定額で先ほど宿泊事業者の皆さんからアンケート数があまり多くないというお話でしたが、100円、150円あたりまでの定額で目的税、流れとしてはそういう方向性なのかなというふうに思います。

一点教えていただいてもよろしいでしょうか。面白いなと思ったのは、先ほどの業者へのアンケート結果で、数は多くないのですが、結構なるほどと思って、金額で150円ぐらいまでで、目的税で、あとオンラインのことがあるので、入湯税って予約する時に払っているものでしょうか。

(久米委員)

ケースによります。

(星野会長)

宿泊税に関する宿泊事業者へのアンケート結果の自由記述の意見の中で、「観光に関わる事のみを使用するのであれば、課税には賛成します。ただ、宿泊税のみを現地徴収しなければならないという情報があるが、これでしたら大反対です。」という意見があったことについては、もしかすると入湯税だけ現場で取るというようなケースもあったりするということでしょうか。

(久米委員)

施設によって、違うかなと思います。

(星野会長)

このケースはおそらく、それだけだと取りづらいというお話なのではないかな。

これも出来るだけクレジットなどのオンライン決済で取るという方向性はそんなに面倒なことではないのでしょうか？

(久米委員)

それに関しまして、先般の会議の後持ち帰りまして、ホテル業協会内部でも少し揉んだ話し込みをしてまいりまして、ホテル協会は部会に分かれているのですが、宿泊部会というところで本件に関してのいろいろな課題を抽出してきたので、少しお話をさせていただきたいと思います。

ちょうどこの県の資料（宿泊税導入に向けた市町村向け意見交換会）の最終ページ、17 ページで、まさにアンケートを取ろうとしている項目も、ほぼそれに該当してくるのですけれども、実際に現在のこのキャッシュレス化が進んでいる中でのこの税の取り方っていうのが一番課題であるというのがそこにあがっておりました。

実態としては、例えば消費税は基本的にはいわゆるパッケージに組み込んでおりますので、通常は予約をする際に消費税まで入った価格で一般的には提示もされ、お客様も事前に決済をするということが一般例でございます。

ただ入湯税に関しては、実際にお風呂に入ろうと入るまいと、ここの施設に泊まったら必ず取られる扱いにしているところは、消費税と同じように最初からもう組み込んでしまって一体として頂いて、宿泊者数に応じて代行者として施設が払うという方式が取られております。

この限りにおいては、当日キャッシュのやり取りがほぼなくなるので、あんまり問題化しないんですね。

ただ、一部のホテルのように実際に温泉が有料で、温泉に入った人だけ入湯税がかかるというケースになると、2 通りございまして、入った人がその場で利用料を払う、もしくは別途精算する、といったケースがございます。

この際にやはりキャッシュレス化しているのでその部分だけ、例えば入湯税だけ現金でお支払い下さいというのは、特に外国のお客様には受け入れにくいものがあります。

このため、今回のこの宿泊税につきましても、限りなく消費税に近いような形で事前に会計に組み込まれるタイプにすべきであろうというのが、ほとんどの意見でした。

これが会計システムの改修に関わってきて、それほど複雑ではないんですけど、宿泊税も含めたパッケージ化と清算というものが出来るようにした方が良くってということがあって、あと細かい話になってくるのですけれども、宿泊税を含むトータルの金額がお客様に提示されて、お客様はそれで清算をするのですけれども、大半がクレジットカード清算をします。そうすると、その宿泊税 150 円に関わるクレジットの手数料も結局は施設の負担になってくる。

微々たるものではありませんが、施設によってクレジットカードの手数料率が異なりますが、それでも例えば 3%~4% という金額が 150 円に対してかかって

くるわけですね。

施設としては150円そのものを払わなければいけないとなると、その手数料分は施設が負担せざるを得なくなってくる。

このため、その点に関しては代行者としての手数料というものが支払われると思いますが、十分カバーされるぐらいの手数料はもらって然るべきじゃないかという意見が出ておりました。

(星野会長)

貴重なご意見ありがとうございました。

また、お調べいただきましてありがとうございました。

(小川委員)

県の説明の中で、使途がいろいろ示されているのですが、市が導入した場合に、県に合わせていくのか、それともある程度合わせてこちらの使途で行くのか、それによって大分説明の仕方が変わってくるのかなとは思いますが。

それともう1点は、今回アンケートをやっていただいた中で、県もアンケートをやるということなんですが、民宿関係についてほとんど状況が掴めていないようで、そこが一番免税点に関わってくる可能性もありますので、何らかの方法でアンケートとか事業者説明とかをやっていただけると、より良いのかなという感じはします。

もう一点ですが、宿泊税を導入した場合、入湯税を現在徴収しているはずなのですが、その目的の中に観光振興があるはずなので、そうするとある場所によっては入湯税と宿泊税がダブル課税になるホテルさんがあるようなので、そこら辺をどのように整理していくのか、懸念しております。

以上です。

(星野会長)

事務局にお伺いしたいのですが、民宿関係を調査することは可能かどうかと、入湯税の使い道というのは国で決まっているのでしょうか。それとも市で決められるのでしょうか。

(平野財政課長)

観光関係という目的税の中の使途はありますが、実際にどこに充当するかというのは、市の中で各事業に充てている状況ですので、もちろんダブるようにはしないつもりです。

(星野会長)

もし併存していくのであれば、そこをわかるようにしていかなければならないと思います。

(平野財政課長)

はい、入湯税に関しては毎年、議会の方にも、ホームページの方にも使途として、どの事業に充当したかというのは公開をしております。今後、宿泊税導入に当たっては、こちらの事業とダぶることがないように、行っていきたいと思っています。

(星野会長)

それから民宿の調査というのは可能なのでしょうか？

(安西財政課長補佐)

民泊ということでよろしいでしょうか。

実は今回のアンケートの実施に当たりまして、民泊事業者に対してどうやってアンケートを実施しようかというところを、実は県の方にも相談をさせていただいたところがございます。

実は民泊につきましては、その部屋の場所というのは、県のホームページで公開がされてはいるんですが、そこを経営している方がどこのどなたなのかというところが、ホームページではわからない状況です。

そういったところで、経営者の方にアンケートをするために、情報を市で使わせてもらえないかご相談をさせていただいたのですが、やはり目的外の使用になってしまうといったところもありまして、その情報を使うことが出来なかったのも、泣く泣く諦めたというような事情がございます。

あと考えておりますところが、千葉県さんがこれから実施されるアンケートにつきまして、ウェブページにも公開して広く目に付くようにされるということなので、我々の実施するものにつきましても、今回は通知の中にQRコードを表記し、直接アンケートページに飛ぶような対応をしておりましたが、市のホームページに、同じアンケートページに飛ぶようなリンクを設置し、民泊事業者の方が目にしてアンケートに答えられるように、今検討をしているところでございます。

(林委員)

免税の件での話なのですが、やはり修学旅行生に対しての免税という話が出ております。けれども修学旅行に限らず、学生さんに対しての免税というもの

を考えて、考慮してもらっても良いのではないかと考えております。

今成田市はスポーツツーリズムを謳っていきまして、いろんなスポーツを通じての観光ということで、いろんな施設も充実してきているんですけども、例えばこれで 150 円という県の宿泊税プラス上乗せとして成田市の分を乗せた場合、非常に金額的に上がってしまいます。他の市町村で言えば、銚子の方ですとスポーツタウンとか、あるいは廃校等を利用しながらスポーツ施設プラス宿泊施設等でいろいろと各地方でも取り組みをやっておりまして、そういった地方では市の上乗せ分はない状態で今話が進んでいるようです。なので、成田市として上乗せ分が出た場合に、金額的に例えば 5,000 円とか 6,000 円とかの価格帯で学生さんたちを呼ぶためには、宿泊税分の 50 円、100 円がシビアになってくるので、そこら辺を少し免税という点で考えてもらえればなと思っております。

(影山副会長)

今回の資料の中で、成田市さんは使途についても、具体的に考えておられて、観光に使うということはとても良いことではないかと思うのですが、県の使途とダブルになる部分がどうなのかなというのが気になるところです。

先ほどお話にありましたけれども、これからその県との調整を図る中で、うまく成田市さんの観光振興に役立つように、県からのものと合わせて使えるような方策がとれると良いなというように感じました。

それからまさにその修学旅行生を含めて学生さんたちを、どのように対応するかというところは、難しいことだと思っております。

実際にホテルの予約とか、支払いとかの時にそれが明らかにわかるものは良いと思うんですけども、そうじゃなくて、学生だからとか入試の関係とかいろんなことで使うということの時に、果たしてその宿泊者を区別することが出来るのかどうかどうなのかなというふうに感じました。

(星野会長)

ありがとうございました。

(久米委員)

市のご担当の方にお伺いしたいんですけども、県の資料の 14 ページを見て交付のイメージと書いてあるところで、全体の 25%が市町村への支援で約 11 億円、その内訳が添付資料 3 とされるんですけども、成田市では 1 億 200 万ということで、全体 10 億 5,000 万のうちの約 1 割を交付される見込みということになっていきまして、ここはおそらく市も市の方の交付金ですので、使途につい

ては市で検討して決められる範囲だろうと思います。

残りのこの 34 億円、75%がどのように配分されるのかっていうところが、全く今見えない状況なのですけれども、仮に、こちらの市町村への交付金と同じように宿泊者のボリュームに応じて、これらが使われるとなると、こちらの 34 億円の中で成田市は 10%程度の配分はもらえるべく動くのかなという気がしております。

そうするとですね、市町村への交付金が仮試算で 1 億と、それからこの観光事業者等への支援の 34 億の 1 割、3 億 4000 万を足すと、4 億 4000 万となっておりますね、当初計画していたこの成田市の宿泊税で集めて使おうとしている金額にほぼ匹敵することになってくるわけで、考え方としては、この県のこの計画通りにこの県の宿泊税が導入されて、集められるのであれば成田市が今検討しているこれらの項目も、この金額の中で、賄えるのではないかという感じを思ったんですけれども、いかがでしょうか？

（平野財政課長）

先日千葉県が示した案についてですが、使途としては観光施策ということは変わりがないのですが、12 ページにございます通り、基本的な活用にあたっての考え方の中で、既存事業には充てられないというようなことでございました。

ゴミ処理とか救急医療には充てられないと、こういった条件がかなりハードルが高いものとなっております、県の観光施策を発展するための新しい施策に 1 億円を充てなさいというようなことが示されておりますので、私どもは従来考えておりました、市独自の課税に関しては、必ずしもその新規だけではなくて、既存事業の拡充のため、物価高騰とかで確実に費用が上がっている中で、イベント等の開催の維持を図っていくためにも、独自の財源というのは必要ではないかと考えているところであります。

そして県の残りの 34 億に関しましても、もちろん成田市に関連する施策が展開されるとは思っておりますが、それもやはり県が新たに推進をしようとする新しい施策に確実に充当されるということのようですので、成田市が考える独自の課税といいますのは、それらとは別で、県の宿泊税の活用を認められないような既存事業を含めた施策にも充てられるような制度設計を出来ればというように考えております。

（久米委員）

平たく言うと、1 回目のときにご説明がありました通り、オーバーツーリズム対策に近いような形でゴミ処理対策であったり、救急医療であったりという

ところ、これが県の方ですと、新規の事業ではないので認められないけれども、成田市としては、実際旅行者が増えていることで、そこは逼迫してきている。

それらの財源にも充てたいという意図もあるということでございましょうか。

（平野財政課長）

県の示す条件よりも、その部分に関しては広く既存事業ですとかそういった観光により発生する対策のような事業にも充てて行きたいというような考え方はあります。

（星野会長）

ありがとうございます。

ちょっと気持ちの中では、独自にやるしかないかなと思い始めています。

その理由はですね、やっぱり県の資料の 12 ページがものすごく引っかかります。県の方、もし傍聴をされていたらぜひ再検討をお願いしたいんですけれども、宿泊税っていう法定外目的税で、分権改革の中で自治を進めるために、導入された法定外税です。昔は法定外普通税も許可制だったのが、同意制になり、そして自治を進める県も市町村も検討を進めているわけです。そうした中でこの活用に当たっての考え方がこのままだと、分権改革で減らしていこうとされた奨励的補助金そのものです。

使い道は成田市が考えるべきことで、これにはお金は出さないとか、オーバーツーリズムに出さないとか、他の財源持つてきちゃいけない、基準に合わないとか出せないとかになると、自治的な財源ではなく奨励的補助金そのものではないでしょうか。これを自治分権の観点から作った制度の中で、法定外目的税として導入するのに、ちょっと市町村には気の毒だなという印象を持ちます。これで何か合意が得られるのであればまたちょっと違うところがありますが、このままでは独自にやるしかないのかなというのが僕の意見です。成田の観光業者や成田に観光にみえる皆さんに、申し訳ないけど観光サービスに関して少しご負担をお願いするというのがこの税の趣旨だと思います。

個人的な意見ですが、県の案はちょっと寂しい感じがいたしました。

分権とか独自に地元でいろいろ議論をしながら考えていこうということからすると、県の案はかなり奨励的補助金感があるという印象を持ちました。

宿泊税には、金額の問題とか免税どうするかっていう問題ありますが、やはり独自で、皆さん、関係者とか、来られる方のあまり負担がないような、我慢どころを探し出して妥協点を探っていただく方がいいというふうに思います。

(星野会長)

他に何かございますか。

あとこの資料の説明で何かアンケートの中で追加的にシステムの話をするということですかね。

目的のところで何かご意見ございますでしょうか。

資料3の4ページ、宿泊税の使途(案)で赤字で示しているのはどういうものなのでしょうか。

(安西財政課長補佐)

使途の中で赤字を入れている部分につきましては、先行自治体であるとか、アンケートの結果で、これから新たに考えられる施策というところの取り組みの中で入れさせていただいているもので、新たにその部分が広がっていくようなイメージを持っていただければと思います。

(影山副会長)

私はまさにそのところだと思うんです。

会長さんがおっしゃられた通り、あまり県からいただけるものは使途が厳しくなっていると使えなくなるということがございますが、成田市さんで具体的に考えておられる使途の中で、まだこれから新たに出来る部分っていうのもあると思うので、まさに成田空港での人材確保というか、必要なことはたくさんあると思いますし、そこは県の施策とも合わせながらどういうものが新規として扱われるのか、拡充なのかということを相談しながらやっていけば、使い勝手が悪いとも言えないと思うんです。

そして、県の方もこれから事業については、構築されていくと思いますし、他の市町村でも宿泊税を考えておられると聞いておりますので、そういうところも含めて、使い勝手の良いものにしていただけるといいなと思います。

以上です。

(星野会長)

ありがとうございます。

大事なことで、やはりそれぞれ市町村レベルで足りないサービスとか、困っているサービスというのは違うと思いますし、それから観光客の皆さんのスタイルとか、どういう方が多いかっていうのはみんな違うと思うので、既存サービスの延長上なのかそうじゃないのかも含めて、やはり独自に議論することは大事かなと思います。

(久米委員)

この赤字で書かれた今後の取り組み案の中で、この人材確保育成の支援、交通手段の確保対策、これらについては具体的にどのようにやってもらったらいいかというのは我々も答えというか、提案ができますし、非常に見えやすい内容で良いと思っております。

一方、新たな観光資源の発掘については我々も非常に苦慮しているところでして、この辺に関して何か具体的な案のようなものがあれば、観光プロモーション課さんの方でお持ちかどうか、もしありましたら、いくつか例をお聞きしたいなと思います。

(窪田観光プロモーション課課長)

はい、新たな観光資源の発掘というところで、本市は新勝寺や、印旛沼などがあります。

ただそういった観光施設のみではなくて、それぞれのソフト面ハード面など、そういったところはいろいろと発掘出来るのかな、まだ余地はあるんじゃないかなと思っております。

やはり新勝寺を含めた街中に関しましては結構あるんですが、やはり周遊をするためには、各地区でのそういった資源の発掘、さらには磨き上げ、そういったところは、私どもも調査しながら、考えながらやっていく必要があります。

(星野会長)

ありがとうございます。

気が早い話ではありますが、実際導入がもしできた場合の話ですが、やっぱり観光協会の皆さんとかホテル関係の皆さんとか、いろいろ関係者が入って進行状況について委員会みたいの作っていただいて、継続的に自治の中で、役所と一体化しながら議論を進めていくのがいいのかなというふうに思います。

それと前回も言わせていただきましたが、実は2、3日前に勉強会で公共交通の専門家と大学の先生で議論しているんですが、やっぱり公共交通はかなり将来的には厳しいみたいですね。

だから、地域交通がどういうふうに進められるかということになると、特にこの成田の場合、ホテルがかなり離れていて、やっぱり空港との絡みでのお仕事されている方も結構多いと思いますし、そう考えると、足の便の問題は結構大きいのかなと思います。

(小川委員)

前回の会議で、いろいろなご意見が出ていますので、この意見を、ぜひ用途のところで反映していただければなと思っておりまして、その時はまたいろいろ協議をさせていただければ幸いと思っております。

それと元に戻ってしまうのですけれども、免税点と課税免除の関係は、県と一緒にやるとなると、非常に難しい面もあるんでしょうけれども、一応免税点の検討と、修学旅行は、再度検討していただければなと思います。

以上です。

(星野会長)

はい、ありがとうございます。

こういうケースで、このぐらいの税収になるというようなシミュレーションは可能ですよね。

(安西財政課長補佐)

375万人というコロナ禍前の宿泊者数のデータを前回提示させていただいたところでございますが、実はその中には民泊とかというのは入っていないので、今小川委員からあったところで、免税点で例えば、民泊事業者が低廉な価格でやっているため免税点を設けて課税しないような形になったとしても、元々実はデータがなかったものですので、そこはシミュレーションに入っていなかったというところです。

(星野会長)

はい、ありがとうございます。

これあと、どういう風にスケジュール的にはなるのでしょうか。

(安西財政課長補佐)

私どもから実際の税額といったところは、具体的なところで提示ができていないところでございます。

今回のご意見などを踏まえまして、次回には私共が考える事業規模から税額をこのぐらいで、というところを提示させていただいて、またご議論いただいた中で、第4回目で最終的な取りまとめというような形でいけたらいいなということで、一応スケジュール感は考えてございます。

(星野会長)

ありがとうございます。

他に何かございますか。

(影山副会長)

一つお聞きしたいんですけれども、宿泊事業者向けアンケートなのですが、県では今やっておられて、2月の20日までということなんですけれども、成田市さんで行われたアンケートが少し回答数が少なかった状況がございますよね。ホテルと旅館で合わせて11施設ということで、もう一度やる考えはお持ちですか。

(安西財政課長補佐)

はい、先ほども申し上げましたが、回答数が少なかったということでこれから再度のご依頼を文書でさせていただいた上で、市のホームページにも掲載をさせていただいて、先ほどのお答えにもなるんですが、民泊事業者の方もちょっと通知が難しいところがございますので、ホームページから回答出来るような形の仕組みでやっていきたいということで考えてございます。

(星野会長)

はい、ありがとうございます。

(林委員)

アンケートにもあったのですが、要はいわゆる上乗せ分の税額がどのくらいでやるというところは、非常に我々宿泊業者にとっては気になるところなのですが、実際市はどういう感じで考えていらっしゃるのでしょうか。

(平野財政課長)

具体的な試算というのはなかなか難しいところはあるんですけれども、前回の会議でお話しさせていただいたかとは思いますが、今現状で、市の観光施策に要している費用が5億円6億円といった金額から考えますと、やはり独自の課税分としては100円から150円くらいが上乗せ分として試算されるころではあるのですが、それに今回の千葉県さんの新規に充てることで示されたということもございますので、そういったのを踏まえながら、また検討していくべきことではないかと考えてはいるところです。

(林委員)

確か他の地方を見ますと、大体200円で行っているところが福岡市であり、また常滑市でも200円で行うということで、このような中250円というのは

少々厳しいのではないかというのが組合での中での見方であります。もう少し抑えた金額で設定し段階をおって3年後、5年後と見直しをしていけば宜しいのではないかと思います。

(平野財政課長)

そうですね、今回千葉県さんが示された案についても、考え方ということでまだ確定ではないと思いますので、そういったところも協議をさせていただきながら、市としてどのぐらいの独自課税をしたら、金額が適正なのかというのは、今千葉県さんもそうですけど、県の自治体の中でも宿泊税導入の動きが多々見られているところですので、そういったところを見極めながら、またこの委員会の中で、次回以降も検討いただいて、決定いただければというように考えております。

(久米委員)

今日宿泊税の使途の案というのが示されて非常に期待を持っておるんですけども、逆に申しますと、我々事業者側の方から、せっかくこれだけの予算を目論んでいるのであれば、これに使ってほしいという具体案を我々から提案した方がよろしいんでしょうかね。

例えば一例を示しますと、この交通手段の確保対策ということで、一昨年のドライバーの働き方改革を含めて、今バス代が非常に上がってしまっており同時に、ドライバー不足が顕著ですので、例えばですけれども、自社バスを持っている事業者がドライバー確保のために、新たなドライバーを新規に採用した場合には、その人件費の何%かをここで請求出来るとかですね、そういうような形で時給を高く設定して、全国の中からもなるべく成田にドライバーの人が集まってくるようにするとかですね。

そういうことが出来ると、まだ違うのかな、あるいはバスの料金の一定額はこの支援が受けられるとかですね。

そういうものがもしあると、我々も非常に弾みがつくんですけども、例えばそういうホテル側としてせっかく集めたら、こういうのに使ってもらえたらな、というものを outsourcing してもらった方がいいのかなって感じですけどどうですか。

(平野財政課長)

そうですね、実際宿泊税を徴収して活用させていただく際にはもちろん事業者の方々ですとか、観光客の方々の生の意見というのが重要になると認識しておりますので、そこはどういう形になるかわかりませんが、ご意見を伺

いする機会というのを設けさせていただいたり、アンケートなりということで有効な活用を図れるように、十分検討させていただきたいと思います。

（星野会長）

宿泊事業者向けアンケートに、今おっしゃっていただいたように、こういうものに使ってほしいという欄をつけてもらうことは可能ですか。

（平野財政課長）

はい、アンケートについても可能とは考えております。

（星野会長）

それを入れていただいて、積極的に書いていただいて集計していただくということは大事なかなと思います。

あとお話を伺いながら思ったんですが、結局この観光対策が何か夢ある未来に向けて新しいイベントをやるというイメージよりは、既存でもうやっているけど、ちょっと十分にできてないとか、足りないとかね、これをもう少し後押ししたい、お相撲でいうと、押されているところ何とか盛り返すようなイメージでもあるので、そうすると何か既存サービスは駄目と言われると相当辛いというような印象を持ちました。

ぜひアンケート項目に入れていただくようお願いいたします。

（安西財政課長補佐）

今のアンケート項目のところでございますが、実はその用途の方をいくつか選んでいただく中で、最後にその他ということで自由記述欄を元々設けてございました。

ただ、そのところがやはりわかりづらかったのかなと思いますので、工夫して実施したいと思っております。

（星野会長）

テーマを絞って書いて、入れていただいたら嬉しいと思います。

（安西財政課長補佐）

承知いたしました。それは可能でございます。

（小川委員）

先ほど林委員の方からお話ありましたけども、事業者へのアンケートの中で、宿泊税の影響というところがありまして、200 円になると影響あるという結果がありますが、これは県も含んでの話ですよ。これも参考にさせていただければと思います。

以上です。

(星野会長)

はいありがとうございます。

そうするとやっぱりある程度金額のシミュレーションをいずれやっていただかないとなかなか辛いものがあるかと思いますが、それからやってほしいサービスのシミュレーションですね。

やってほしいサービスの金額って出るんですかね。

(平野財政課長)

なかなか具体的なサービス内容でいくらかかるかっていうところまでは、積算が難しい部分もありますが、今回のアンケートも含めて、導入にあたっては、継続的に発生する税ですので、毎年毎年何をやっていきたいかというのは、需要が変わってくることもございますので、そこは継続的に各事業者さんですとか、観光客の皆さんのご意見を率直に反映できればというふうには考えております。

(久米委員)

事業者側からこれだとこれくらいかかりますっていうサンプルを出すことはできます。

例えば多言語対策のためにフロントカウンター台数分の翻訳アプリを入れられる端末とかを導入したら、いくらでいくつ必要ですかみたいなものは、すぐ出せますのでそういうことは可能です。

(星野会長)

そしたらそれもいずれもし出していただけるようなら、この会議で持ち寄って議論する材料になるかと思いますが、他の先生も何かそういう具体的な議論出来る材料があれば、お出しいただければ嬉しいと思います。

(影山副会長)

交通の関係などで観光客の方がたくさんバスに乗ることで、市民の方が乗りにくくなるとか、買い物にしても、私もたまたま昨日東京に行っていたのです

が、デパートの中は本当にそのインバウンドの方で新しいお店が出ているから見たいなと思ったところは、もう既にいっぱい並んでいて全然見られないということがいろんなところで起こっていると思うんですね。市民の方から見て、観光客についてウェルカムの部分と、ちょっと困っている部分っていうのもあるんじゃないかと思うんですね。

観光施策ってすごく本当に幅広いと思うので、市民の方から見ても、こんなことがあれば観光客にとっても自分たちにとっても良いっていうふうなことも出してもらえるような方法があったらいいかなというふうに感じました。

(星野会長)

ありがとうございました。結構それは大事で、何かその辺りもいろいろデータとかあるんでしょうか。

(窪田観光プロモーション課長)

市民にとって今現状ですけども、オーバーツーリズムという認識はまだないんですね。

参道であったり、例えば祇園祭の時に、もうすごい人出で、イベントの時にはゴミの問題であったりとか、そういう認識はあるんですけども、通年通してのオーバーツーリズムの認識はまだございません。

まだ市民の方も、そこまで外国人に対して嫌だというような、そのようなことはあまり聞かないです。

ただ、ホテルさんやコンビニの周りでたむろっているなど、そういった話は、多少あるんですけども、ほぼほぼそこまでの苦情というのは市の方には入っておりませんので、そういった認識でいます。

(星野会長)

ありがとうございました、他にございますか。

それではないようでございますので、議事についてはこれで終了といたします。

次にその他でございますが、事務局より何かございますか。

(安西財政課長補佐)

はい、事務局から次回の会議の予定についてお伝えをさせていただきたいと思えます。

次回の会議でございますが、3月28日の金曜日、時間については今日と同じぐらいの時間で開始をしたいということで考えてございます。

改めまして、正式に決まりましたら、通知等させていただきたいと思いますが、ご予定をしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

(星野会長)

その他特になければ、会議については終了とさせていただきます。

会議の進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

進行を事務局にお返しします、どうもありがとうございました。

(安西財政課長補佐)

はい。

委員の皆様どうもありがとうございました。

以上をもちまして、第2回成田市宿泊税に関する有識者懇談会を閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。

(星野会長)

どうもありがとうございました。